

勝山市における中高連携に関する主な協議内容（令和3年5月現在）
福井県教育委員会・勝山市教育委員会
勝山高校・勝山市中学校校長会

[1] 中高の時間割の統一

- ◆中高連携の実践には、両校の時間割合わせが必須の前提となる。
現在の始業時間は中学校が8時30分、高校が8時40分であるが、高校は遠距離通学者もあり、中学校が高校に合わせるのが妥当。
- ◆1時限の時間は両校共に50分授業であるが、午後の授業開始時間も合わせる必要があり、高校で工夫する方法が考えられる。
- ◆1日の授業は、中学校が6限、高校は7限。部活動の合同練習には時間調整が必要となるが、準備と後片付けを分担するなど工夫するといいい。
- ◆細かな調整が必要であるが、全体的に中高の時間合わせは十分に可能。

[2] 中高教員の兼務による授業・補習の持ち方

- ◆近年の勝山高校定員割れの大きな要因に、進学実績が指摘されている。
勝山市の中学生が福井市の県立または私立高校を目指す傾向が強まる中、勝山高校の魅力をも高める重要な要素として学力向上は不可欠な課題。
- ◆中高教員の兼務により、勝山高校の教員が中学3年生に大学入試を見据えた発展学習を行うなどの方法が考えられる。
- ◆その繋がりでも、より多くの中学生が勝山高校へ進学し、難関大学など高い目標にも果敢に挑戦する生徒の層が厚くなり、切磋琢磨する風土の醸成と成果が期待される。
- ◆中学生の全体的な学力アップにも、できる範囲での高校教員による指導が考えられ、高校から先の進路に必要な各種試験等を意識した勉強方法の指導は効果的と思われる。
- ◆一方、中学校教員の高校生指導は主に4教科で想定され、中高教員の適材適所や持ち時間の平準化など合理的な指導体制の編成が可能と考えられる。

[3] 中高で進める勝山特有の教育・活動(学校の特色化・魅力化)

- ◆ 県立高校と市立中学校の併設連携という先進的な形態により、様々な効果が期待され、そのこと自体が学校の大きな特色・魅力化になると思われる。
- ◆ 「勝山らしさ」を活かした系統的教育が可能となり、その最も特徴的な素材として「恐竜」がある。「恐竜」を核とするジオパーク・古生物学習を県立恐竜博物館と連携しながら小中高で進めることも考えられる。
勝山高校に、恐竜など特色ある地域資源を活用した探究活動を行う新たな学科を開設し広く生徒を募集すれば、全国の注目を集めるのではないか。
高校からは、現在計画されている福井県立大学の恐竜をメインとする古生物学科への道筋を開き、恐竜のメッカならではの教育を進めることが可能。
- ◆ また、市内在住の専門家を活用した質の高いICT教育の推進や、全国に先駆けて取り組んできた英語教育の更なる充実など、小中高を一貫する勝山市の教育の特徴としていくことも考えられる。
- ◆ 現在、中学校と勝山高校それぞれで取り組んでいるふるさと学習を連動させることにより、更に中身の濃い学習と地域活動への拡がり期待できる。

[4] 部活動での連携・交流

- ◆ 統合後の中学校は生徒数増により、いくつかの部の新設が可能となり、勝山高校の部活動に合わせた新設部も想定される(例:太鼓、バスケットボール)
- ◆ 中高の顧問・副顧問は、中高教員の兼務により適材適所の担当が可能。
- ◆ 勝山高校へ進学する中学3年生は、中学卒業後いち早く高校部活動への交流も可能。
- ◆ 合同練習は、一部の部活動を除いてほとんどで可能。常時ではなく、定期的に合同で行うなどが考えられる。
- ◆ 大会等では、中高の相互応援も可能となり士気が高まる。
- ◆ 文化芸術系では、合同の発表会や地域行事への参加により、ダイナミックな活動を展開できる。
- ◆ 部単位による中高合同の地域ボランティア活動を進めれば、大きな波及効果がある。
- ◆ これらの連携・交流により、高校教員と中学生、高校生と中学生の絆が深まり、勝山高校へ進学する中学生が増えることに大きな期待が持てる。
- ◆ 中学校は統合効果により必然的に部活動の充実が図られるが、更に中高の連携によるレベルアップが期待され、その生徒たちが勝山高校に進学して高校の部活動も活性化するという好循環により、高校の魅力向上に繋がってほしい。

[5] 学校行事での連携・交流

- ◆ 学校祭や文化祭・体育祭などは、いろいろな意味で合同実施の効果が大きい。特に、中学生や高校生にとって、学校行事は楽しい思い出の代表であり、中高合同で実施できれば、スケールアップしたより魅力的な内容にできると考えられる。
- ◆ 講演会等の合同聴講は合理的で、勝山市出身の先輩や各界の著名人招聘も積極的に行うべき。
- ◆ 年間を通して合同の効果が期待できる行事について、今後中高の教員で検討し、実際の実施に当たっては両校の生徒会等実行委員会主導で進めるといい。生徒が企画運営する行事は、中高の協働・交流による一体感の醸成と中学生の勝山高校への愛着心や憧れに繋がり、進学増が期待される。

[6] 合同職員会議・研究会等

- ◆ 中高連携の成果を挙げるには、学校運営の様々な面で教職員の日頃の意思疎通を図ることが最も必要な要素。
- ◆ 中高併設が実現すれば、県立と市立の枠組みを超えて、同一敷地内に立地する利点を最大限活かした有機的な意思疎通・連携が可能となる。
- ◆ 合同職員会議は管理職始め代表者による基本的・重要事項等の協議や確認を行い、研究会は各教科や特色ある学習活動、進路指導、生徒指導、学校行事等について定期または随時開催とすることなどが考えられるが、効率的・効果的な運営方法を検討する必要がある。

[7] 施設の整備および利用

◎ 新中学校の建設場所

- ◆ 候補としては、勝山高校校舎に近接するグラウンド北側、西側テニスコート・プール敷地、グラウンド南側(元・市営体育館側)などが考えられる。今後、生徒や教職員の動線を考慮して、中高連携がスムーズに進められるよう最適地を選定する必要がある。
- ◆ スクールバスの発着場と中学生の生徒玄関については、中学校校舎の場所に密接に関係するため、併せて検討したい。

◎ 教室等

- ◆ 勝山高校では現在の教室のリノベーションを予定しており、新中学校の校舎建設に際し、中高共用の特別教室を整備することや、高校の一部の教室を中学生が利用することも考えられる。中高一体感の醸成と整備費の縮減にも繋がる。

◎体育館・グラウンド

- ◆体育の授業については、中高のカリキュラム調整によって高校施設の共用は物理的に可能と考えられるが、勝山市体育館ジオアリーナや長山公園グラウンドの十分な活用について、その動線も含めて検討する。
- ◆部活動についても、更に近隣の学校や勝山市の施設を利用する工夫も含め、今後より具体的な検討を行う。
- ◆入学式や卒業式、全校集会等、体育館を用いる両校の年間行事の擦り合わせなど、更に詳細な調整・工夫を進めたい。

◎生徒寮

- ◆現在の勝山高校の生徒寮は、毎年定員(13名)を上回る需要があり、高校では対応に苦慮する状況が続いている。
- ◆今後、勝山市の新中学校に市外から入学する生徒があり得ることも想定して、勝山高校の生徒寮を新たに整備することを検討したい。

◎市営駐車場の活用

- ◆元市営体育館跡の市営駐車場は、中高併設・連携を進める上で大いに活用できる場所にあり、最も効果的な活用方法を検討したい。

[8]スクールバスの高校生利用

- ◆中学生が利用するスクールバスを、ぜひ高校生も利用できるようにしたい。
- ◆高校生およびその保護者にとっても、日々の通学の利便性・安全性は極めて重要な事柄である。中学生が高校を選択する際の大切な要素ともなり得るものであり、勝山高校の魅力向上の一助としたい。

以上の内容は、連携の可能性と効果について考えられる事項を協議したものであり、その具体化にはそれぞれの課題整理と詰めが必要となる。

また、勝山高校における「探究科」の設置など魅力向上への取組みとの整合性を十分考慮していくことが求められる。

これらのことを踏まえ、今後、更に必要となる調整・協議を進めることとする。